



### 学校教育目標

### 刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒の育成～

### 校訓

### 自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第44号

令和6年1月9日発行 文責：副校長 久我 和廣

今年もよろしくお願いたします。



令和6年（2024年）が幕を開けました。本日、行われた3学期始業式等では、生徒の元気な顔を見ることができ安心しました。

さて、今年は「辰年（たつとし）」です。辰年は、十二支に振り分けられたときに5番目にくる干支です。干支以外にも十干（じっかん）と呼ばれるものを加えることもあります。2024年の「辰年」に十干（じっかん）を加えると「甲辰（きのえたつ）」となります。

- 甲 →十干の「甲」は十干の最初にあたるものであり、甲冑（かっちゅう）の「甲」の文字から鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表す文字です。また、生命や物事の始まり、成長も意味しています。
- 辰 →辰は十二支の5番目で、「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表します。辰は龍（竜）のことであり、十二支の中で唯一の架空の生き物です。水や海の神として祀られてきた龍は、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものであり、「龍が現れるとめでたいことが起こる」と伝えられてきました。また、東洋では権力・隆盛の象徴として親しまれていた龍は、身近な存在だった事から十二支に選ばれたと言われており、辰年のキーワードは変革、激動と言われています。

甲と辰が合わさる2024年は、辰年のキーワードである「変革（転機）」や「激動」が示すように、時代が動く年になるかもしれません。大きな出来事が起こると予想され、これまでの努力が実って夢が叶いやすい年とも言い換えられます。中には、努力が成果につながらないこともあるかもしれません。しかし、地道に努力を続ければ水面下で着実に育ち、次につながる年になると考えられる年でもあります。

さて、2024年、今年も生徒一人一人が各自の目標をかなえられるよう、我々教職員一同、力を合わせて精一杯支援していきます。保護者の皆様からも昨年に引き続き、ご支援とご協力をいただけますよう、よろしくお願いたします。

1 学年代表      1 年 4 組      根本 貴醒邑

みなさん、夢や目標を持っていますか？調べてみると、夢とは過去に制限を受けずに将来実現したいと思っている事項で、目標は実現したい事柄の目印とできてきました。そして、私の夢は英語が話せることです。私の母は、車でよく洋楽を聴いています。ある歌詞に「Every time you come around」とあるのですが、その歌詞がエビタニにしか聞こえず、母と妹に笑われます。同様なことが多々あり、いつか母を見返せるようにリスニング能力を鍛えて、英語が話せるようになりたいです。



次に、目標は幼い頃から続けているピアノを頑張ることです。中学生になり、生活が一変してから、なかなか練習する時間がありません。しかし、部活で吹奏楽部に入部し、今まで習ったことのない音楽に触れ、音楽は楽しいと再認識しました。合唱コンクールでは、伴奏をさせていただき、皆で目標に向かって力を合わせて練習する楽しさもわかりました。そしてこのような夢や目標を持って2学期頑張ったことは2つあります。

一つ目はテスト勉強です。2学期は定期テストが2回あり、テスト勉強がとても大変でした。各教科重要語句や公式など新しいことをたくさん習ったので、ワークを何度も解き直したり、教科書を読んで覚え直しました。

二つ目は、あいさつです。東金中の「あじみそ」をもう一度意識して頑張ろうと意識しました。最初の頃は、声が小さいかもと感じましたが、今は相手が聞こえる声量で自分からあいさつができるようになりました。

1年生も残すところ3学期のみとなります。2学期までに成長したところをいかして頑張っていこうと思います。

2学年代表 2年4組 今井 愛理

私は、2学期に学んだことがたくさんあります。

一つ目は、みんなで一つのことを意識することの大切さです。合唱コンクールの練習は最初の頃、課題がうまく改善できず、やる気のない姿勢だと感じられる場面が多くありました。しかし、本番が近づくにつれて、みんなの意識も高まり、どのような気持ちで臨めばよいかを考える力がつきました。



二つ目は、私達2学年は職場体験学習に行ってきました。それぞれ行った場所は異なりますが、共通して言えることは、どの職業でも挨拶や時間を守るなど、東金中学校の合言葉「あ・じ・み・そ」は大切でした。でも、それ以上に実際に体験してみると、仕事はとて大変でした。事業所の方の仕事をしているとお客さんへの対応を丁寧に行いながら、パソコンでの事務仕事が多いことに気づきました。そのことから、働くためには、体力やコミュニケーション能力に加えてパソコンを扱う力も大切だと感じました。そして、何よりもテーマである「働くとは」は、どういうことかということです。働くとは、自分のためだけでなく、人のため、人の役に立つためであることを学び、今の私達の生活は周りの人達のおかげで成り立っていることを実感しました。この2学期は、その反面課題も見えました。それは休み時間に、はしゃいでいたり、大声で話をしている時があったことです。これはクラスだけでなく、学年でも同じだと思います。学年に慣れてきて、今まで、できたことができなくなってしまうように気を引き締めていきたいです。また、人に対する言葉遣いなど、相手のことを考えて行動することも最近できていないと思います。

3学期は締めくくりの学期であり、最上級生になるための準備の学期でもあります。一人一人が最上級生になるという自覚を持ち、後ろ姿で後輩に示せるような学年にしていきたいです。

3学年代表 3年1組 清水 優衣

9月から始まった2学期もついに今日で終わりになり、時の流れの早さに驚きと焦りを感じています。私は2学期を通じて学びと成長には深いつながりがあることに気がつきました。2学期は、受験に向けての意思が本格的に強まってくる頃なので、特に成績とテストの点を上げるために努力しました。



まず、成績を上げるために、小テストなどの小さな課題にも手を抜かずに取り組みました。もちろん、定期テストで点数をとることも大切です。定期テストでは多くの人が高得点をとるために勉強に取り組みますが、小テストなどの小さいものになると気が緩みがちです。だからこそ、小さい課題にもしっかりと取り組むことでこの目標を達成することができました。また、実力テストの点数を上げるために、自己分析をしました。「十人十色」という言葉があるように、自分に合った勉強法も一人一人違います。自分に合った勉強法以外にも、どの教科の、どの単元が苦手なのかや間違えた問題をなぜ間違えてしまったのかなど、細かいところまで把握するようにしました。自分の苦手な部分を把握し、その部分を重点的に勉強することで今まで、苦手な教科から逃げてきた分、勇気を出して苦手に向き合った結果、実力テストで少しずつ点数を上げることができました。私は、この2学期で本気でやることの楽しさを学び、努力をすれば必ずいつか結果につながるということを実感しました。しかし、これらはあくまでも一つのステップにすぎません。まだ自分の理想とする実力には達していないと感じています。自分の理想とする実力をつけるために、受験本番まで諦めず受験勉強へ取り組もうと思います。うまく結果が出ずに悩んでいたり、不安やプレッシャーに押しつぶされそうな人もいますが目標に向かって本気で取り組んだという経験は、必ず自分を成長させ、やがて自信になります。辛い時期ではありますが、ここを乗り越えれば楽しい日々が待っています。あともう少し、自分を信じて突き進んでいきましょう。

大会結果

☆卓球部  
千葉県中学校新人卓球大会  
女子個人  
シングルス部の部

4回戦	中村 彩乃 (2年2組)	対	柏二中	1-3	惜敗
2回戦	阿部友里亜 (2年5組)	対	浦安中	0-3	惜敗
1回戦	瀬川愛唯菜 (2年3組)	対	昭和中	2-3	惜敗
1回戦	植松 鈴葉 (2年4組)	対	芝浦工柏中	1-3	惜敗